

第 24 回 日本受精着床学会

開催地：群馬・軽井沢プリンスホテル

移植胚数および胚グレードに基づく二段階胚移植（2stepET）の治療成績

西原卓志、村田泰隆、岡村太郎、達石沙貴子、辻 陽子、春木 篤、園田桃代、奥 裕嗣、森本義晴、
神崎秀陽*

IVF なんばクリニック *関西医科大学産科学婦人科学教室

【目的】

当院では、二段階胚移植を難治症例を対象に行っている。胚盤胞移植と比較し多胎率を上昇させることなく妊娠率の上昇を認めているが、移植胚数が多いほど多胎率が高い傾向にあった。そこで今回、多胎妊娠を減らす目的で移植胚数を決める基準を明確にするため後方視的に検討を行った。

【対象と方法】

新鮮二段階胚移植を予定した 120 症例 149 周期を対象とし、移植胚数別（検討 1）、移植胚のグレード別（検討 2）に妊娠反応陽性率（妊娠率）、着床率、多胎率の検討を行った。良好胚盤胞は、当院の過去のデータより Gardner 分類の 3AA と 4 以上で C を含まないものとした。

【結果】

（検討 1）二段階胚移植を行った周期の妊娠率は 43.6%(51/117)で、二段階目の胚移植がキャンセルになった周期の妊娠率 12.9%(4/31)と比較し高率であった ($p<0.01$)。移植個数は 1→1(個)、1→2、2→1 では差がなかった。1→1 よりも 1→2、2→1 で多胎率が高い傾向にあったが、有意差はなかった($p=0.24$)

（検討 2）一段階目で良好胚を 2 つ移植すれば、二段階目の胚盤胞の質に関わらず妊娠率が高率であった(60.0%(9/15))。2 個の良好胚盤胞を移植すると多胎率は 54.5%(6/11)と高率であった。1→2 や 1→1 の場合は、一段階目のグレードの良・不良は妊娠率には影響がなかった。1 個でも良好な胚盤胞を移植出来た場合の妊娠率は 54.3%(38/70)、着床率は 32.3%(54/167)で、不良胚盤胞しか移植できなかった場合の妊娠率 25.0%(13/52)、着床率 11.5%(15/131)と比較し高率であった($p<0.01$)。多胎になった症例は、平均 IVF-ET 施行回数が 4.3 回で反復不成功例でも多胎となる症例がみられた。

【考察】

良好胚盤胞 2 個の移植は施行回数に関係なく多胎の可能性が高くなり、また一段階目の移植胚グレードの良・不良は妊娠率に影響がないため、多胎妊娠を減らすためにも二段階目の移植は良好な胚盤胞が出来た場合は 1 個移植で十分であると考えられた。